

新年のご挨拶



錦江町長

楠元忠洋



「新たな地域産業の振興、 地方創生をめざして」

新年あけましておめでとございます。

家族お揃いで、良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年、広島の大規模な土砂災害や御嶽山噴火、年末には爆弾低気圧といわれるような急速に発達する低気圧によって、東北地方を中心に風雪害が発生しました。本町でも、昨年は2回の台風接近により、葉たばこやだいこんなどの農作物に被害が発生し、町制施行10周年記念事業のひとつでもありました町民体育大会を中止せざるをえませんでした。

また昨年5月には、「日本創生会議」が「消滅可能性自治体」896市町村名を公表しました。鹿児島県内では43市町村中、29市町村が含まれており、本町もそのひとつです。東京一極集中が更に進み、地方の人口流出に歯止めがかからなければ、896市町村が2040年までに消滅するという警鐘を鳴らす

ための公表でした。

国は、このような状況を踏まえ、東京一極集中を回避し、アベノミクス効果を全国津々浦々に及ぼすために、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を打ち立てました。本町も懸命な取り組みをしなければ、まさに消滅していくという危機感から、いち早くこの創生総合戦略に取り組みたいと思います。そのために、シティーマネージャー派遣制度（国家公務員等を自治体に派遣）に応募し、実効性のある計画を策定し、第一次産業を主体として産業の創生を図り、町内に住んでいる人が安定した生活ができ、決して錦江町は消滅しないという実証を内外に示していきたいと思います。中でも、主産業である農業については、法人化による規模拡大、後継者の育成、契約栽培の拡大などに取り組むことにより、移住や定住による新たな雇用創出を図りたいと思います。

また、廃校舎などを含めた公共施設については、総合管理計画を策定し、町内各地区の拠点施設として活用できるよう計画を進めるとともに、「地域おこし協力隊」を導入するなど、地域づくりも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

昨年8月から副町長を置き、農政をはじめとした新たな地域産業の振興や、現在国が進めている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に積極的に取り組んでいきたいと思えます。

町制施行10周年を迎えた今年を錦江町創生元年と位置づけて、町政発展のために邁進していく所存でございますので、皆様のご協力をお願いいたします。